

## 賀 茂 地 区

- 1 研修会回数 年間4回実施(他に各支部別5～6回実施)
- 2 研修テーマ 感じようこころと体 めざそう健やかな生活

研 修 内 容	主 催 者	備考(講師・運営)
4月 4支部の研修計画立案 東 賀 チーム学校に向けた養護教諭の専門性を生かした取り組み 下 田 子どもたちの安全・安心な生活をめざした学校保健活動 南伊豆 保健室から発信する安心・安全な学校づくり 西 豆 校内における危機への対応力の向上をめざした学校保健活動	賀茂教育研究会 賀茂地区学校保健会	※1 賀茂医師会長 太田整形外科 医師 太田清利 氏
6月 代表者報告、執務上の問題点について	賀茂教育研究会	
11月 講習会※1 「けがの手当てと対応～スポーツ外傷も含めて～」	賀茂教育研究会	
3月 4支部の研修報告、活動の反省、代表者報告		

4支部に分かれて研修を進めており、年に数回全員で行う研修会は情報交換や各支部の様子を知る貴重な機会となっている。今年度の講習会では、太田整形外科の太田清利氏を講師に迎え、スポーツ外傷を含めたけがの手当てや対応について研修を行う予定である。

## 田 方 地 区

- 1 研修会回数 年間11回実施
- 2 研修テーマ 子供の心と体を見つめ、成長を支える連携  
～人と関わりながら、自分で判断し、適切に行動できる子をめざして～

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
5月 年間計画立案	田方地区教育研究会	※1 堺市教育委員会 指導主事 藤井清司 氏
6月 学校保健会総会・講演会 ※1		
7月 全体研修 グループ研修 組織別研修		
7.9月 全体研修 学校保健研究大会発表準備	田方地区学校保健会	※2 大会記念講演 埼玉医科大学 助教授 高橋幸子 氏
10月 全体研修 組織別研修		
11月 学校保健研究大会 ※2		
12.1月 全体研修		
3月 研修まとめ、活動反省		

「人と関わりながら自分で判断し適切に行動できる子」を目指し、「連携」の視点でテーマを設定し研修を進めている。学校保健研究大会に向け、グループごとに、子供たちが生きる上での土台となる「心身ともに健康な生活を送るために必要な4つの力」を身につけるための取組を行っている。

## 東 豆 地 区

- 1 研修会回数 年間3回実施(他に市ごと月1回程度実施)
- 2 研修テーマ 熱海 しなやかで へこたれない 心の力を育てよう  
伊東 困難な状況の中でも立ち直る力を持ち、しなやかに適応する子の育成を目指して

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
6. 3月 代表者会報告 熱海・伊東研修報告 熱海・伊東地区別研修	東豆学校保健研究会	
11月 代表者会報告・講習会 ※		

2地区合同での研修は年3回行っている。11月は合同の研修を行い、残りの2回は、両市それぞれの研修を報告し合い意見交換を行っている。両市とも心の健康をテーマにした取組を進めているので、今年度も情報交換を行いながら研修を深めていきたい。

## 三 島 地 区

- 1 研修会回数 年間8回実施
- 2 研修テーマ ICTを活用した保健教育と執務の効率化

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
4月 研修計画、研修内容の検討 6.7.9.1月 グループ研修 7月 啓発紙「生きる」検討 キントーンの操作方法等について※	三島市学校保健研 修 会	※株式会社ITS 堤 杏美 氏 他4名
10月 学校での救急対応について	三島市教育委員会	
2月 グループ研修発表、まとめ		

昨年度に引き続き、一人一人のICT活用力を向上させ、執務の効率化を図るとともに、効果的に指導できるようにしたいと考え研修している。また、今年度から小中学校の1年生にキントーンでの保健調査票と内科検診の問診票のデータ化が実施され、活用し始めているところである。

## 駿 東 地 区

- 1 研修会回数 年間6回実施
- 2 研修テーマ 4つの支部に分かれて、それぞれの研修も進めている。

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
6.7.11.2月 学校保健研修会 (第2回)「HSCの特性理解と環境づくりについて」 ※1	駿東地区教育協会	※1 株式会社サステナミー 皆川公美子 氏
(第3回)保健主事・養護教諭合同研修会 ※2		※2 フリーランス医師 境野高資 氏
7月 学校保健代議委員会・講演会 ※3 「心を育む性教育の実践 ～思いを込めた多職種連携の力～」	駿東地区学校保健 会	※3 学校医(南寿堂医院) 岩田祥吾 氏
11月 地区学校保健研究大会 ※4		※4 東北大学加齢医学研究所 教授 瀧 靖之 氏
2月 第4回学校保健研修会		

2市3町の駿東地区では、4つの支部に分かれて、支部ごとに研修を行っている。地区全体の研修は会員相互の連携・資質向上を目的に、班別研修を充実させ、情報交換を積極的に行うとともに、講演会で新しい専門的な知識が得られるようにしている。

## 沼 津 地 区

- 1 研修会回数 年間13回実施
- 2 研修テーマ 「養護教諭としての基本的執務の見直し～市内の共通理解を図り、執務の改善・効率化を目指す～」

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
4.8.12.1.2.3月 全体研修 今年度の研修計画	沼津教育振興会	
6月 校区研修		
7・8月 夏季研究大会準備	沼津市学校保健会	※1 教職員研修センター 川村幸弘 氏
8月 夏季講演会※1 「ICTを活用した保健室経営」		
6.9,11月 二部合同研修会		

養護教諭一人ひとりのスキルアップはもちろんのこと、市内共通で足並みを揃えるべきものを明確化し、共通理解を図りながら執務を見直している。

## 富士地区

- 1 研修会回数 年間8回実施
- 2 研修テーマ 生涯にわたり心豊かで健やかに生きる子 ～一緒に学び実践力を高め合う～

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
5.3月 全体研修	富士市教育健康推進会	※1 静岡大学 副学長 鎌塚優子 氏
7.12月 班別研修		
7月 高校との連絡会	富士市教育研究推進会	※2 富士市立中央病院小児科医長 村木國夫 氏
7.1月 講演会 ※1 ※2 ※3		
8月 モアレ検査説明会	富士市学校保健会	※3 市内眼科医 (未定)
校区別執務検討・班別研修		
11月 一斉授業研究会		

今年度を長期研修計画の1年目と位置付け、異年齢で構成された課題別の班で研修を行う。各養護教諭のキャリア別に目指す姿を設定し、互いに学び合いながら養護教諭の資質・能力の向上を目指すことで、児童生徒の問題解決につなげていく。

## 富士宮地区

- 1 研修会回数 年間10回実施
- 2 研修テーマ しなやかでたくましい心と体を育む健康教育～組織横断的な取組を生かし、自らを健康に導く子供の育成～

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
4.12月 学校医及び養護教諭合同研修会	富士宮市教育委員会	
6.11月 第1回市内全体研修会		
7.8.10.1.2月 第1回健康教育研修会		
2月 学校歯科医及び養護教諭合同研修会		

令和4年度より2年計画で5つのテーマに分かれて班別研修を進めている。子供たちが、自分や周りの人の命を大切にし、人と関わって学び、考え、判断して行動できる能力を育成することや、養護教諭の資質能力の向上を目指している。

## 静岡地区

- 1 研修会回数 市全体会・年間3回実施 (他に支部ごと8～9回実施)
- 2 研修テーマ 生きる力と豊かな心を育む健康教育をめざして

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
8月 第1回市養護教諭研修会 「養護の本質を捉えた養護実践とは」※1 「多職種・他機関連携における養護教諭の役割」※2	静岡市教育委員会	※1・2 静岡大学 副学長 鎌塚優子 氏
10月 第2回市養護教諭研修会 「起立性調節障害の理解と子どもとの関わり」※3		
3月 第3回市養護教諭研修会 講義と支部研修報告	静岡市養護教諭研究会	※3 昭和大学教授 田中大介 氏

昨年度から静岡型小中一貫教育が本格的にスタートする中、養護教諭として各支部や個人で研修してきたことを各学校において様々な実践を積み重ねている。「チーム学校」における養護教諭の役割について考え、健康教育や保健管理及び組織活動の推進について研修を深めていきたい。

## 志 太 地 区

- 1 研修会回数 年間3回実施
- 2 研修テーマ 心身共に健康で、活力に満ちた児童生徒の育成  
～子どもの「こころとからだ」の健やかな成長を目指して～

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
7.12月 養護教諭研究会研修会 学校保健会研修会(班別研修) 「支援の必要な子どもたちへの 具体的ななかかわり方」※1	志太地区養護教諭研究会  志太地区学校保健会	※1 浜松学院大学短期大学部 教授 志村浩二 氏
8月 志太教育研究集会「学校保健部」 「インクルーシブ教育を意識した養護教諭の実践」※2	志太地区教育協議会	※2 静岡大学 副学長 鎌塚優子 氏

限られた時間の中で研究を積み重ねている。今年度は健診票等の入力活用マニュアルを作成し、執務の効率化を図っていく。また講演会と実践交換会を開催し、養護教諭としての資質を高める機会とする。地区においては、学校統合による会員減少に伴い組織の見直しが課題となっている。

## 榛 原 地 区

- 1 研修会回数 年間4回実施
- 2 研修テーマ しなやかに、人とかかわりながら前向きに生きていこうとする子～保健室からのアプローチ～

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
6.11.2月 全体研修会 講話「特別支援教育について」 ※1	榛原地区養護教諭研究会	※1 発達支援教室じゃんけんぼん 夏目徹也 氏
10月 学校保健部研修会※2 「応急手当について」	榛原地区教育協会学校保健部	※2 藤枝エムエスマイスター

養護教諭自身が、前向きに取り組めるよう悩み等を共有し、実践紹介やアイデアを出し合い、保健指導、組織活動、健康相談を窓口「養護教諭のレベルアップ」をめざしている。次年度も学校再編により会員数が減少するが、横のつながりを大切にし、研修を深めていきたい。

## 小 笠 地 区

- 1 研修会回数 年間3回実施
- 2 研修テーマ ・健康教育推進者としての力量を高め、専門性、独自性を活かした資質の向上  
・小笠地区養護教諭研究会の組織の活性化

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
6.8月 全体研修会 研修計画・顧問校長講話※1 「育成と連携」※2 ～養護教諭の資質向上を目指す～	小笠地区養護教諭研究会	※1 小笠地区養護教諭研究会 顧問校長 石山哲也 氏
11月 学校保健研究部一斉研究報告会 「自分の身体と主体的に向き合う子どもの育 成」～切れ目のない健康教育を進めるための 効果的な連携の在り方～	小笠教育研究協会  学校保健研究部	※2 掛川市教育委員会 学校教育 課 指導係GIGA班 清水啓行 氏 菊川市立総合病院 産婦人科医 城向 賢 氏

「育成と連携」を努力点とし、「個と組織の育成」「個と組織の連携」を目指して研修を進めている。限られた研修の中で会員相互に連携し情報共有しながら、養護教諭としての資質向上に努めていきたい。

## 湖 西 地 区

- 1 研修会回数 年間11回実施
- 2 研修テーマ これからの学校保健の在り方

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
5.7.8.11.1月 養護教諭研修会 6月 湖西市学校保健会総会・講演会 「食と健康」※1	湖西市教育会	※1 北原歯科医院 院長 北原友也 氏
7月 保主・養教合同研修会 「ゲートキーパー講習会」※2	湖西市学校保健会	※2 西部健康福祉センター 保健師 宮地俊行 氏
1.2月 学校保健研修会 ※3	湖西市教育委員会	※3 神奈川県立保健福祉大学 准教授 高橋佐和子 氏

児童生徒の不登校の増加、自分で困難を乗り越える力の乏しきなどが子供たちの健康課題としてあげられる。困難な状況でも適切に対処し、生涯を生き抜くことができる子供の育成を目指し、援助希求やストレス対処に関する集団指導、個に合わせた個別指導について重点的に取り組んでいる。

## 磐 周 地 区

- 1 研修会回数 年間3回実施（他に市町ごとに4～5回実施）
- 2 研修テーマ 生涯を通して、自ら生きる力を育てる健康教育  
～心身ともに健康な生活を送るためのヘルスリテラシーの育成～

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
6月 第1回養護教諭研修会 事業計画・各校区の研修計画発表	磐周学校保健会	※1 静岡大学 副学長 鎌塚優子 氏
10月 第2回養護教諭研修会 「ヘルスリテラシーの健康教育への活用方法について②」※1		
3月 第3回養護教諭研修会(実技研修)		

中学校区の健康課題を解決するために、PDCAサイクルによる実践の中にヘルスリテラシーの視点を加え、その成果を経年的にみることができるよう研修を進めている。他の中学校区の研修の様子を知る機会を増やし、情報共有や協議を通してより研修を深めていくよう考えている。

## 浜 松 地 区

- 1 研修会回数 年間11回実施
- 2 研修テーマ (1) すこやかな心と体 命を大切にできる子の育成  
(2) 養護教諭の資質向上を目指して

研 修 内 容	主 催 者	備 考(講師・運営)
4月 教育研究協議会	浜松市教育研究会 浜松市教育委員会 浜松市学校保健会	※1 静岡大学 副学長 鎌塚優子 氏
5・8・10月 養護教諭部ブロック別研修会		
6・8・11月 保健主事養護教諭合同研修会		※2 健康安全課指導主事
6・10・3月 養護教諭研修会※1※2※3		※3 浜松学院大学短期大学 志村浩二 氏
7月 養護教諭部研修会(分科会)		

養護教諭の専門性を高めるために、多方面から職務を見直し、若手育成を念頭に置きながら研修の充実に努めている。また、研究推進委員会を通して、職務の標準化に関する内容を全体に共有できるように進めていくとともに、養護教諭職務Q&A・保健文書ファイル管理・学校保健に関する書籍・資料の整備を進めていく。